

基本情報

施設名	ラフ・クルー元町保育園
所在地	横浜市中区石川町 2-64 プラザセレス石川 2 階
電話番号	045-633-2203
評価年度	平成 29 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

評価方法

自己評価	
(実施期間) 平成 29 年 8 月 1 日～ 平成 29 年 9 月 30 日	職員会議にて項目ごとに見直しを行い、園長にてまとめる。
評価調査員による評価	
(実施期間) 平成 29 年 11 月 6 日 平成 29 年 11 月 7 日	評価調査者 2 名が、2 日間を通し、保育園内の視察、保育内容、園児の観察、書類確認及び園長、職員との面接、ヒアリングにより評価を行いました。乳児、幼児の食事の観察を行い、保育環境、子どもの遊びの様子及び延長保育の観察を実施しました。
利用者家族アンケート	
(実施期間) 平成 29 年 9 月 15 日～ 平成 29 年 10 月 10 日	ご家族へアンケート配付し、各家庭より評価機関へ提出。
利用者本人調査	
(実施期間) 平成 29 年 11 月 6 日 平成 29 年 11 月 7 日	0 歳～5 歳児対象に 1 日の生活を通して観察を行い、園生活、食事、遊び等を場面観察から考察をまとめました。

第三者評価結果報告書

《総括》

対象事業所名	ラフ・クルー元町保育園
経営主体(法人等)	株式会社コミュニティハウス
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒231-0868 横浜市中区石川町 2-64 プラザセレス石川 2F
設立年月日	平成 20 年 4 月 1 日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

総合評価

● ラフ・クルー元町保育園の立地・概要

● ラフ・クルー元町保育園は、JR 根岸線石川町駅から徒歩 1 分駅近くの店舗およびマンションのあるビルの 2 階部分にあります。この辺りは中区の中心地域で、近くに元町商店街、中華街、中区役所が集まる中区の観光、商業、行政の中心地であると共に、横浜市の中心部的一部分となっています。保育園は、駅を挟んで元町商店街の反対側の川沿いに位置し、古くからある商店街の一角にあり、お散歩で商店街の方との交流やお泊り保育時の買い物等、日頃から親しい交流があります。保育園の裏の丘陵の上には山手イタリア山庭園や横浜女学院高校等があり、その延長の丘沿いにはフェリス女学院大学、山手公園もあり、お散歩コースになっています。また、足を延ばして山下公園や港の見える丘公園にも行き、横浜港やベイブリッジを満喫できます。さらに、保育園の近くも数箇所、ゆったりと遊べる公園もあり、街中にありながら遊びの環境が整っています。

● 園舎内は、左右に乳児と幼児の保育室を分け、玄関を入れて正面に事務所を設け、子ども、保護者に対応できるよう目が行き届く配置になっています。左奥には 0 歳児室があり、落ち着いた環境を確保し、玄関左に沿って 1 歳児室を設け、右奥の広い保育室は手前を 2 歳児のスペースとし、3 歳～5 歳児が右奥の空間を保育室としており、常時、異年齢での交流が図られ、集団生活を通して思いやりの心を育む環境作りが成されています。地域の育児支援では、ラフ・クルー元町保育園は、中区グランマ保育園事業実施園として活動し、一時保育、絵本の貸し出し、園内開放を提供し、地域の子育て親子に開かれた保育園として尽力しています。

● ラフ・クルー元町保育園の保育の方針

ラフ・クルー元町保育園の名称である「ラフ・クルー」とは、Laugh（笑顔）と Crew（仲間）が歯車となってつながっていく願いを込めて名付けられています。保育理念でもある「子どもの個性を尊重し、豊かな心を育て、たゆみない笑顔を創造します。」を根幹に、「笑顔」と「仲間」を歯車にした保育を実践しています。園のこだわりとして、「安全・食・設備」であることは前回の第三者評価でも特徴として取り上げ、現在も継続して実施しています。1つ目の「安全」では、玄関の完全オートロック、お散歩時には職員が携帯電話、笛を携帯し、常に子どもの安全第一に保育にあたっています。2つ目の「食」では、成長期の子どものために食育に力を入れ栽培に取り組んでいます。3つ目の「設備」では、全室床暖房を設備し、空調、24時間換気システム等を備え、子どもの快適な園生活を保障しています。さらに、これらに裏打ちされた保育の取り組みとして、「子ども一人ひとりの目線にたち、個性を尊重し自分への自信を育む。」、「本物の体験を多く取り入れ、感受性を育む。」、「集団生活の中で思いやりの心を育む。」、「落ち着いた環境の中で、生きる力の基礎を育む。」とし、変化の大きい社会に生き抜いていく力の根源として、「自分は愛されている」、「自分に自信が持てる」保育に努めています。地域とのかかわりについて、中区ではグランマ保育園事業を展開し、地域の子育ての支援体制を整えていますが、さらに、地域コミュニティとの協力によりラフ・クルー元町保育園、子ども、保護者、町内会が有機的につながることを目指し、夏祭りでの町内会との共催や、中区子ども駅伝大会等に参加し、交流を深めています。園では、これらの活動、子どもの基礎作りにより将来、日本を背負う子どもの成長に寄与して行くべくして日々、取り組んでいます。

《優れている点》

1. 【一人一人を大切にした保育】

ラフ・クルー元町保育園では、子どもの「自己肯定感」を大切にし、生きる力の基礎を育む保育を目指しています。「自己肯定感」は、自分は愛されていると自信を持つことがスタートです。昨今の保護者の価値観の差異、地域のコミュニティも核家族化や、助け合い、声かけ合い等の希薄な構成となり、現代の社会の中で子どもの「自己肯定感」を育むよう、まず、園で子ども一人一人を大切にした保育を進め、保護者に対してフォローしながら、子どもと向き合い、しっかりと愛情を注いでもらえるよう支援に尽力しています。また、地域の力も交え、子ども一人一人が触れ合う人々に愛されていると感じられるよう、自信を持って生きていけるよう、支援に努めています。

2. 【食への興味が持てる食育活動】

前回の第三者評価では、栽培等を含めた食育活動をさらなる改善が求められる点に挙げていましたが、園の環境の中で「栽培」に関しては外部環境の難しさの現状は変わりありませんが、現在、さらなる楽しい食事、食育にかかわる取り組みに格段の進歩が見られ、園としても意図して推進している点は高く評価ができます。園として、食育の取り組みに力を入れ、食に対する意欲ある栄養士を2名体制で現在、取り組んでいます。おやつは完全手作りとし、献立や食材に季節感・旬のものを吟味して盛り込み、盛り付けの彩りや形状、子どもに合った刻み方等に工夫しています。栄養士は、食事時には子どもの様子・反響や喫食状況を把握するよう食事時間に見て回り、子ども一人一人と親しみ、食事を提供している先生として食への関心にもつながるようになっていきます。また、子どもの嗜好を把握し、調理によって苦手な食材も食べられるようになるよう、日常会話から献立に取り入れるように工夫に努めています。保育士は、「給食の先生が来たから、さっきお話していたことを聞いてみたら？」等、栄養士と交流できるよう配慮し、子どもは栄養士に話しかけ、「これは、どうやって作ったの？」と興味を抱くようになり、良い関係が構築され、自然に子どもの食への興味・関心が日常的に湧き出てきている等、成果が見られています。

《さらなる期待がされる点》

1. 【食育にかかわる栽培活動について】

前述の如く、子ども、保育士、栄養士の関係は非常に良い状況にあります。食の好き嫌いを無くす工夫として、前述のように栄養士と子どもが親しみ、おいしく食せることも大きなファクターとなりますが、子どもたちで育てた野菜や、自分たちで収穫した野菜を実際に食べてみることも大きなファクターになると思います。土地に関して物理的にプランターでの栽培には限界がありますが、土と親しむ、生長過程の観察や、実物を触る等の機会が得られることを期待されます。例えば、系列園で畑へさつまいも掘りに行く行事や、商店に協力を願い、魚の解体を見る機会等、また、食事前に見えなくした箱に手を入れて触ってみて、給食にその食材を出して触った食材と結びつける工夫等、職員間でブレインストーミングを図り、食育への取り組みのアイデアを出し合ってみる等、一考を期待しております。

横浜市福祉サービス第三者評価結果

ラフ・クルー元町保育園	
評価年度	29 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

領域Ⅰ 利用者本人(子ども本人) の尊重 領域Ⅱ サービスの実施内容 領域Ⅲ 地域支援機能 領域Ⅳ 開かれた運営 領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上 領域Ⅵ 経営管理

評価領域Ⅰ 利用者本人(子ども本人) の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I-1 保育方針の共通理解と 保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none">●保育理念は、「子どもの個性を尊重し、豊かな心を育て、たゆみない笑顔を創造します。」を掲げ、子どもを尊重した内容となっています。職員は、保育方針について打合せ時やレポートの提出等を通して、様々な機会を得て理解を深めています。また、子どもの個性を尊重し、豊かな心を育て、思いやりの気持ちが持てるよう、子どもの成長を見守り、保育にあたっています。保育理念、保育方針は、常に目につくよう更衣室や玄関に掲示し、法人のマニュアルを各自保有し、変更あれば差し替え、日々の保育に活用しています。●保育課程は、法人系列(5園)の園長で基本を作成し、各園で保育指針と園の基本方針に沿い、地域の実態、周囲の環境を考慮し、子どもの「生きる力」の基礎を育むねらいと、子どもの最善の利益を第一義として作成しています。保育課程は、年度末に全職員で見直し、次年度の保育課程に反映するようにしています。園の情報は入園のしおりでお知らせすると共に、運営委員会を開催した時には議事録を掲示し、全保護者が見られるよう配慮しています。●保育課程に基づき、子どもの個人差に配慮して年齢ごとに年間指導計画を立て、発達に応じた保育を実践しています。子どもに対して、年齢、発達を考慮して納得できることを大切にし、理解できる子どもには、保育課程をわかりやすく説明しています。言語化できない子どもには、かかわりの中で表情等から気持ちを汲み取っています。子どもの接し方については、疑問については即答するのではなく、「どう思うの?」と聞いて考えることを促したり、子ども同士のトラブル解決に必要な以上に代弁しないこと等、子どもの表現す

	<p>る場、考える機会を大人が奪ってしまわないよう心がけています。また、子どもが集中して遊べていない時には、その子どもの興味に合った遊びを提供する等、それぞれの子どもに応じて対応しています。園では、子どもの発する言葉が、保育士主導になっていないかを常に検討し、子どもの要望、意見を取り入れた環境設定や指導計画を立案するよう努め、できる得ることを試み、失敗体験も次の糧となるよう取り組んでいます。</p>
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●入園前に子どもと一緒に来園願い、保護者と次年度の担任保育士とで面談を実施し、面談中は子どもの様子観察を行い、家庭での状況等を把握し、記録を行い、保育に生かしています。面談内容は、職員間で情報を共有し、面談記録はファイルをして全職員が必要に応じて閲覧できるようにし、日常の保育に生かしています。 ●新入園児の受け入れの際は、短縮保育（慣らし保育）を実施し、1週間を目安にしていますが、保護者の事情や子どもの様子に応じて臨機応変に対応しています。0歳、1歳児では、生活面（食事・授乳・午睡）に関して子ども一人一人に主担当を定め、遊びでは他の職員とも関わりを持つよう配慮しています。保護者との連絡は、乳児は連絡ノートを活用し、全体日誌にも記載して、保護者との連携を密に図っています。幼児も連絡ノートを活用して1日の出来事、子どもの様子を伝え、保護者が安心できるよう心がけています。在園児に対しては、職員1名は持ち上がりをし、フリーの保育士も2名配置しています。 ●指導計画は、毎月、毎週、週末に打ち合わせを設けて自己評価を実施し、園長、主任、複数担任のチェックを行っています。見直しについては毎月、乳・幼児クラスの担任で話し合い、今後の課題を抽出し、改善に努めています。離乳食やトイレトレーニング、着脱・箸移行等に関しては、保護者と連携しながら個々の発達状況を把握の上、個別に計画を立案しています。保護者の意向は、申し出を受けた内容を検討の上、週案に反映し、必要に応じて年間計画に反映するようにしています。
<p>I-3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設環境については、全職員で掃除分担を行い、毎日、掃除チェック表に基づいて玩具や子どもの手が触れる箇所の消毒、清掃を行い、清潔を確保しています。園内は24時間換気装置を設備し、併せて掃除の際に自然換気を行い、空気清浄器や加湿器、温湿度計を設置し、その日の気温や湿度に合わせて、エアコンや加湿器を調整し、快適な環境を提供しています。保育室は、ガラス窓が広くとら

	<p>れ、十分に陽光が入り明るく、窓面のブラインドカーテンにより直射日光等を防ぐよう、環境作りに配慮しています。音や声に関しては、職員の声のトーンに配慮し、一斉の声かけを極力減らし、個別に声かけをするよう努めています。</p> <p>●沐浴設備は0歳児保育室に備え、乳児トイレに温水シャワーを設備し、身体の清潔を保っています。設備は、衛生マニュアルに沿って担任が掃除・消毒を行い、チェック表に記入し、清潔に過ごせるよう配慮しています。</p> <p>●園舎は、1フロアを活用して保育を行っており、各スペースは低い棚等を活用して機能別に空間を確保し、動線に配慮してコーナー設定を行う等、工夫しています。また、用途に合わせて棚のレイアウトを変更するようにしています。幼児クラスは異年齢の活動が主であり、幼児異年齢で2グループに分かれて活動を行い、小集団保育が行えるよう棚等の配置を変えて工夫しています。異年齢児の交流では、お散歩と一緒に外出したり、朝、夕の合同保育では乳児と幼児が触れ合っています。</p>
<p>I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<p>●0歳～2歳児については、子ども一人一人の保育目標を設定して個別指導計画を作成し、子どもに応じて変更、見直しを柔軟に行っています。障害児についても個別指導計画を作成し、配慮の必要な子どもについては、幼児でも個別指導計画を作成しています。保護者には日々の様子を伝え、必要に応じて見学や面談を行い、情報収集に努め、共有を図り、適切な支援につなげています。特別な課題がある場合は、個別の日記を作成しています。</p> <p>●子どもの個別の状況、成長状況の記録は、指導計画に記載し、内容は全職員で共有を図り、0歳、1歳児は毎日の記録（日記）に記録し、記録内容は、1箇所保管して必要に応じて職員が閲覧できるようにしています。子どもや家庭の個別の状況、保護者の要望は児童票に記入し、子ども一人一人の発達過程に応じた対応ができるように職員間で共有しています。重要な申し送り事項は年度末に、前担任と新担任での引き継ぎを行い、継続性に留意しています。保育所児童保育要録は作成し、就学先の小学校に送付しています。</p>
<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<p>●特に配慮を要する子どもの個別のケースについては、子どもの現状を理解し、配慮点やかかわり方等を話し合い、全職員が対応できるようにしています。緊急を要する内容は伝達ノートで伝え、全体で共有できるようにしています。職員は、横浜市中部地域療育センターの年1～2回の巡回訪問指導を受けて学習し、保育に生かして</p>

います。最新情報、研修で得た学びは、会議で報告し、ファイリングして全体で共有化を図っています。幼児日誌のフォーマットには気になる子どものコメントを記載する欄を設け、配慮しています。

●障害児保育のための環境整備では、床はバリアフリーであり、オストメイト対応トイレも設置し、環境を整えています。関係機関との連携では、横浜市中心部地域療育センター、中区保健師等と必要に応じて相談・指導を受けられる体制を整え、医療機関や専門機関からの助言内容や障害児保育に関する知識等は、会議で全職員に周知し、共有しています。職員は、障害児保育にかかわる研修を受講し、伝達研修を行い、全職員で特性を理解し、知識を深め、保育に役立てています。園では、障害における子どもの身体に負担がかからないよう子どものペース、状況に応じた最善の生活ができるよう配慮しています。また、障害の状態により加配を行い、1対1で対応を行ったケースもあります。

●虐待の定義については、研修、会議等で全職員に周知しています。虐待予防・早期発見については、登園時に正対して挨拶を心がけ、子ども、保護者の様子に留意し、子どもの表情・仕草・言葉の変化を記録し、注意深く視診を心がけ、必要に応じて児童相談所や中区の保健師等に相談しています。ネグレクト、過保護等のケースも見られ、職員は見守りや、家族に様子を聞く等、虐待の未然防止に努めています。

●アレルギー疾患のある子どもの除去食対応では、かかりつけ医の指示の下、個人調査票を確認し、必要に応じて保護者、園長、看護師、栄養士で面談の上、対応しています。園では、年1回、アレルギー対象児（乳児は年2回）に受診を促し、医師による生活管理指導表を受け、記録しています。職員に対して、看護師が年数回、アレルギーについて園内研修を実施し、必要な知識や情報の共通理解を図り、随時、栄養士からも研修を行い、特に新人職員には、園のアレルギー食配膳時のシステムの理解を促し、誤配膳がないよう周知徹底を行っています。また、アレルギー児の専用ファイルを設け、いつでも閲覧できるようにしています。

●アレルギー児への給食の提供では、専用のトレイにてクラス、名前、アレルギー名、除去食材を示し、盛り付け後は、速やかにラップをかけ、ラップにも名前、除去なし・代替えした食品名、除去した食品名を記入し、誤食がないよう徹底しています。給食の受け渡しは、給食職員と保育士の2者で、指差し口頭確認を行い、栄養士

からもダブルチェックを行っています。解除に関しては、書類が揃い、職員に周知後解除を行い、保護者にはアレルギー源に色を付けてわかりやすく配付しています。行事食では、アレルギー児もバイキングに参加できるように、除去がない献立にして配慮し、全園児が楽しめるよう工夫しています。また、離乳食での主要アレルギー食材については、家庭で試し・確認の上、園で提供するようにしています。

●文化が異なる子どもへの対応については、言語、生活習慣を把握し、理解に努め、受け止め、少しずつ日本の暮らしに慣れていけるよう配慮しています。また、危険回避および清潔にできるよう保護者と連携して対応しています。他の子どもたちは、自然に受け入れ、わかりやすく話すよう配慮も見られます。違いを感じた部分があれば、それを聞いたり、感じ取り、必要な場合はわかりやすく話すようにしています。外国籍に係る保護者へは、理解できない部分はジェスチャーを交えながら伝え、不安軽減に配慮し、手引き等を使用して意思疎通を図っています。大切なことは母国語がわかる他の保護者の通訳や、必要に応じて中区の交流センターの通訳ボランティアの依頼ができる体制にあります。

I - 6 苦情解決体制



●苦情対応マニュアルを整備し、職員・保護者が活用できるように備えています。苦情解決については「園のしおり」に記載し、第三者委員も明示し、第三者委員、権利擁護機関の連絡先は園内に掲示して周知しています。保護者からの意見は、意見箱を設置して意見が述べられる環境作りを行い、運営委員会、懇談会やアンケート(無記名)等で意見、要望等を聞く機会を設けています。アンケートの集計結果、要望等への改善策は、園内に掲示し、運営委員会でも討議しています。園では、日頃から意見等が話せる雰囲気作りを心がけ、コミュニケーションに努め、ノート等も活用できるよう働きかけています。

●苦情解決の体制については、外部の権利擁護機関や相談機関と連携体制を持ち、第三者委員を交えた運営委員会を年2回開催し、苦情解決にあたっています。要望や苦情の対応は主に園長が行い、要望や苦情を受けた場合は、内容を園長に報告し、速やかに職員間で解決策を図る体制を整え、園全体で解決にあたっています。過去にあった苦情に関しては「クレーム受理表」を作成し、問題解決と再発防止に活用しています。

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>Ⅱ-1 保育内容 [遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●玩具等は、年齢や発達に合わせて揃え、棚の高さは子どもの目線に合わせて設定し、自由に取り出して遊べるようにしています。また、年齢に合わせて、玩具等の取り出し方を工夫し、本、工作、ブロック等、遊び方によってコーナーを分け、遊び始めるよう配慮し、静と動のコーナー分けをするよう工夫しています。活動、遊びの内容に応じて設定保育時間内に限定せず、遊びによっては1週間以上の時間を設ける等、子どもの自主性を尊重しています。子どもで整理整頓ができるよう指導も心がけています。 ●子どもの遊びについては、自由遊びの時間を十分に確保し、子どもが遊び込んでいる時には予定を柔軟に変更しています。また、個々に遊びを選択し、カラー積み木、独楽等の遊び方を考える機会を支援し、子どもに自由と責任を教えています。また、子どもの主体性を尊重し、子どもの自由な発想を遊びに展開したり、「本物」に対する感覚を育み、本物を感じながら遊べるよう援助しています。 ●一斉活動はできる限り減らし、子ども一人一人が落ち着いてじっくり取り組める時間に移行するようにしています。ルールのある遊びでは、ルールを守ることの大切さや、ルールを守って遊ぶ楽しさを知るよう伝え、無理強いを控えるようにしています。お泊り保育(園外保育)では、「どこに行くか」、「何が食べたいか」等を子どもが決める、夜の遊びも子どもたちが決め、職員と一緒に作り上げています。 ●栽培の取り組みでは、保育室内外でプランターを活用して栽培体験を行い、植物の生長過程の観察や、収穫を調理体験に活用し、給食で食す等、食育活動につなげています。前回は紫蘇を大量に収穫することができ、子どもたちの喜びの体験になりました。飼育では、クワガタ、メダカを飼育し、成長・命を身近に尊ぶことにつなげています。今後さらに、栽培体験を増やし、飼育を取り入れる工夫の検討を期待しています。 ●地域との交流では、園外活動を通して、地域の方(商店街等)と積極的に挨拶を交わし、子どもたちも親しみ、挨拶をして交流を図り、近隣の様々な公園(吉浜町、扇町、元町)で自然と触れ合い、四季に咲く花の説明をしたり、自然の大切さを伝え、恵まれた周辺

環境を生かし、四季折々の自然、風景から豊かな五感を育んでいます。子どもは図鑑を持参し、自分の興味を持った植物を調べられるようにしています。

●子ども同士のケンカについては、年齢や発達状況に応じて、保育士は危険のないよう見守りながら、子ども同士で解決ができるよう援助しています。また、落ち着いて話ができるよう場所を変えたり、本人同士が納得するまで話し合い、信頼関係が築けるように支援しています。子どもが困っている場面では、すぐに保育者がかわるのではなく、年長児に年少児が困っていることを伝え、自主的に手伝えるよう声かけを行い、思いやりを育んでいます。乳児の玩具の取り合い等では、保育士が言葉かけをしながら教えています。異年齢同士のかかわりでは、朝夕の合同保育、お散歩、誕生会で交流を図り、3歳～5歳児は縦割り保育を実施し、遊びたい友達と自由に遊べる体制があります。

●健康増進の工夫では、散歩や屋外活動等を取り入れ、天気の良い日は外遊びで体を動かすように努め、子どもの発達状況に応じて戸外遊び（公園の広さ、固定遊具、公園までの距離）を選択しています。公園では、固定遊具を活用したりし、ボールやなわとび等を持参して体力作りを行っています。週1回、体操の専門講師が来園し、3歳～5歳児が指導を受け、体を動かすことの楽しさを学び、運動能力を高めています。運動会ではパラバルーン、組体操を行い、練習段階でも大いに体を動かす機会になっています。子どもの健康は、その日の登園の健康状態を把握し、既往歴に配慮して遊びを選択する等、配慮しています。

Ⅱ－1 保育内容 [生活]



●食事については、栄養士がおかずの盛り付け補助を行い、子どもが自身で食べる量を調整することにより、完食する喜び、お代わりをする楽しみを味わい、楽しく食事を摂っています。子どもたちは栄養士とも親しみ、声かけにより「苦手だけど食べるよ！」等、食への興味・関心を抱いています。乳児クラスは、目標量をお皿に盛り付け、個々に合わせて調節できるよう、取り分け皿を用意して配慮し、2歳児の下期より職員も一緒に食事を行い、「おいしいね！」と共感する喜び、楽しみを大切にしています。園では、各年齢に合わせて旬の食材のポスターを作成し、クラスに掲示して日頃から食材に関心が持てるよう取り組み、給食時間に本物の食材を見せて給食でその食材を発見する等、楽しい食事の雰囲気作りを行い、苦手意識の軽減、食への意欲につなげています。また、配膳時には食材

に興味を持てる声かけや、調理までの段階の視覚体験を通して興味・関心を引き出しています

●0歳クラスは、食札を作り、家庭での摂取済の食材が一目でわかるようにして提供しています。11か月頃から掴み食べを考慮してスティック野菜を付け、12か月頃から補助スプーンに加え、こども用のスプーンを用意し、子どもの自主性を大切にしています。離乳食については、入園前に、保護者と子ども、栄養士で面談を行い、情報を得、新入園児説明会で栄養士より離乳食の食材の進め方や注意事項をまとめた資料を配付し、説明の上、離乳食を進めています。

●毎月の献立は、栄養士が園独自に作成し、メニューや食材に季節感を盛り込み、盛り付け・彩り・形状は、園の調理師が工夫して調理しています。また、食事をするのは楽しいと思ってもらえるような雰囲気作りを大切にしています。幼児クラスには、ひらがなの献立表を貼り出し、知らせています。主要アレルギー食材については、食材チェック表を活用し、各家庭で確認を得てから園で提供をするよう配慮しています。食器は陶器を採用し、全園児が強化磁器を使用し、料理の温かさが感じられるようにしています。食具は、各月齢・年齢、体格等に合ったものを揃え、時期や成長によって見直しをしています。また、食事のマナーや、スプーンの持ち方、箸の使い方を各クラスに掲示し、懇談会でも保護者に食具の持ち方、使い方を説明し、家庭での協力を伝えています。

●子どもの喫食状況は、毎日、残菜の合計を把握し、給食日誌に記録しています。栄養士は盛り付け時に、子どもとコミュニケーションを図り、食べたいもの、好む食事等を把握し、献立に反映するようにしています。乳児は食事状況を日誌に記録し、幼児は盛り付け時に喫食状況を確認しています。特に乳児クラスは、1回目の食具备合から調理方法（切り方・盛り付け・固さ・味付け等）を給食室と話し合い、改善に努めています。

●献立表は、保護者に前月に事前に配付し、カロリー、食材等を明記して情報提供を行い、「献立通信」も配付して季節に合った食材や食べ方等について発信し、家庭での食育につなげています。0歳児クラスには、2週間前に献立を配付し、家庭で初めて食べる食材を試してもらう期間を設けています。離乳食で食事形態が移行する際は、保護者と連携し、食材チェック表を活用して移行を進めています。毎年、4月の給食日より、「ラフ・クルーの給食」について特色やポイント等を知らせ、毎日、給食サンプル（量・内容）

を玄関に展示し、保護者へ食の興味・関心につなげています。

●午睡時は、安心して心地良い眠りにつけるようスペースを設け、睡眠環境に配慮しています。眠れない子どもは、横になって休息するよう促し、静かに過ごせるよう対応しています。必要に応じて、連絡帳で起床時間を確認の上、午睡時間の調整を図る等、子どものリズムを大切にしています。乳幼児突然死症候群（SIDS）予防では、0歳、1歳児は5分ごとに、2歳児は10分ごとにチェックをして記録し、呼吸・顔色・全身状態を確認しています。年長児は、その年の年長児の状況（家庭環境・保育時間）を考慮し、午睡をなくす時期を決めるようにし、12月位から段階的に午睡をなくすようにしています。

●トイレトレーニングについては、個人差を尊重し、家庭と確認し合い、同時に進めていくことを重視して個々の発達状態に応じて実施しています。園での状況は降園時に保護者に伝え、トレーニングの声掛けや表を作成することで個人差を把握するようにしています。乳児トイレは、子どもが親しみやすいよう装飾に工夫しています。お漏らしをした際は、子どもの羞恥心への配慮を心がけ、温水シャワーを活用する等、気持ち良く過ごせるようにしています。

II-2 健康管理・衛生管理・ 安全管理 [健康管理]



●健康管理は、健康管理に関するマニュアルを整備し、看護師が子ども一人一人の状況（病欠理由等）を看護日誌に記録し、健康管理を行っています。登園時は、必ず視診と体調面の確認を行い、ケガや前日の体調の変化もノートや所定の用紙に記録し、全職員で情報を共有し、降園時に伝達記録を基に園での子どもの状況を保護者に伝えています。既往症のある子どもについては、常に保護者と情報交換を行い、対応にかかわる職員に伝え、緊急時に備えています。歯磨きについては、1歳の後半から食後に口をゆすぐようにし、2歳の後半から歯磨き指導を実施し、幼児は食後に歯磨きを習慣化しています。歯科検診時には4歳、5歳児は赤塗りを行っています。

●年2回、健康診断を行い、歯科検診は年1回実施しています。園では、事前に保護者に健診の際に聞きたいこと等のアンケートを実施し、健康管理に関心に向けた取り組みを行っています。診断結果は、看護師が記録し、嘱託医と連携を図り、保護者に速やかに伝えています。嘱託医の指導があった場合は、個別指導ができるよう、保護者と連携し、食事、睡眠、身体測定値、アレルギー等について把握しています。子ども一人一人の健康管理は、児童票、面談記録

	<p>に記録し、情報は会議等で全職員と共有し、家庭と連携を図り、子どもの健康に配慮しています。歯科検診を機に歯の磨き方の見直しを行い、保護者にも伝えています。</p> <p>●感染症等の登園停止基準は、園のしおりに記載し、保護者に配付して周知しています。保育中に感染症等の疑いが生じた際の対応は、「感染症等への対応に関するマニュアル」に明記し、発症が確認された場合は、園長、看護師に報告し、速やかに保護者に連絡を行い、医務室で個別対応し、他クラスにも周知して感染症の蔓延に注意し、予防対策等を掲示板にて保護者に知らせています。最新の感染症情報は、職員間で情報を共有し毎月1回、保健だよりを発行し、感染症の予防に関して知らせています。</p>
<p>II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<p>●衛生管理に関するマニュアルは、年に数回見直しを図り、マニュアルに沿って定期的に研修を行っています。清掃については、マニュアルに沿い、清掃・衛生チェックを実施し、用途に応じて専用の雑巾を分け、次亜塩素酸除菌液で掃除および消毒を行い、衛生管理に努めています。嘔吐処理の際は、ビニール袋のエプロン、マスク、使い捨て手袋、ペーパータオルを整え、緊急時も衛生的に対応できるように備えています。</p>
<p>II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<p>●安全管理では、備品等は備え付けを多くし、家具類は転倒防止や配置に考慮して安全対策を講じています。安全管理に関するマニュアルを整え、月1回、様々に想定した避難訓練をマニュアルに沿って実施し、年1回、消防署員による訓練も行い、避難時の備品の確認も訓練の機会に行っています。緊急時の保護者への緊急連絡先の確認は年1回実施し、安心伝言サービスを活用しています。安全管理に関するマニュアルは内容の確認と共に見直しを図り、整備に努めています。職員は、救急救命法およびAEDの使い方を受講し、打ち合わせ時に伝達研修を行い、全職員が習得できるよう緊急時に備えています。</p> <p>●子どものケガについては、職員の更衣室にボードを設置して各クラスのケガを記載し、対策等も全職員で確認できるようにしています。園内のケガの状況は記録を行い、「軽症記録」についても整備し、職員間で確認しています。保護者に対しては、軽傷であっても状況の報告を行い、通院の場合は受診後の結果を伝えています。ヒヤリハット、事故報告書に記録し、室内の危険箇所についても話し合い、会議等で周知を図り、再発防止に努めています。</p>

●外部からの侵入に対して、マニュアルに沿い、不審者侵入を想定した不審者対応研修を実施し、外部の研修にも参加し、受講内容の報告の下、実際に検証してマニュアルの見直しを行っています。園の玄関はオートロックであり、保護者・来園者はインターホンのカメラで確認後、解錠し、登録者以外の迎えの場合は、身分証の提示、事前の写真確認を行い、不審者等の侵入防止策を講じています。園では、職員間で合言葉（暗号）を定め、不審者への緊急体制を整え、子どもたちの安全を確保しています。不審者情報は、主に中区役所から配信され、近隣の回覧からも入手し、保護者へも掲示や口頭で伝えています。

II-3 人権の尊重



●園では、人格尊重、言葉遣いや言葉のかけ方、援助の仕方について考え、会議で話し合い、共有を図り、子どもに気付きのある「言葉の研修」をする機会を設け、より良い保育に努めています。子どもとの接し方では、職員は腰を落とし、できるだけ子どもと同じ視線で物を見、穏やかに会話をしよう心がけています。また、子どもの気持ちや発言を肯定的に受け止め、一人の個として尊重し、全職員で共通認識を図っています。子どもを注意する際は、その事象のみを注意するようにし、わかりやすく話し、威圧的な言葉遣い、強制、自尊心を傷つけるような保育は行っていません。人権を守ることができるよう、威圧的な言葉使いなどがされないよう職員を指導しています。人格尊重について、全職員が努力しています。

●他人の視線を意識せず過ごせる場所を確保するように努め、仕切りで区切られた場所で、保育士と1対1で話しをしたり、一人で落ち着いて絵本を読んだりできるようにしています。

●個人情報の取り扱いや守秘義務については、個人情報の取り扱いのガイドラインを備え、定義・目的について全職員、ボランティアや実習生にも説明し、周知しています。職員は、入社時に個人情報保護方針の研修を受け、理解しています。保護者には新入園児説明会にて、入園のしおり（重要事項説明書）で個人情報の取り扱いについて説明し、署名、同意を得ています。個人情報が記載されている文書は、事務所内の書庫に施錠して保管し、管理をしています。

●性差に関する配慮では、遊びや行事での役割、持ち物や服装での区別や、グループ分けや整列も性別で分けをすることはしていません。子どもや保護者に対して、父親・母親の役割を固定的に捉えた話し方や表現をしないようにしています。また、無意識に性差による固定観念で保育をしないよう打合せで振り返り、共通理解をしています。

II-4 保護者との交流・連携



●保育方針について、園見学時、保護者会（年 1 回）や、入園時に説明し、園だよりでも保育方針がわかるよう工夫しています。行事後や年度末に保護者アンケートを実施し、保育方針の理解度を把握し、意見等は保育に生かすようにしています。毎日、ホワイトボードで活動内容を伝える際に基本方針が伝わるよう記載し、保護者の目・意識に留まるよう取り組んでいます。

●園生活での様子や活動内容は、連絡帳、ホワイトボード（幼児は必要に応じて連絡ノート）を活用して伝え、その日の子どもの様子は送迎時にも口頭で伝え、個々のエピソードを添えるように心がけています。保護者との連絡、伝達事項は、職員間で情報を共有し、連絡帳を活用し、長時間保育を利用する家庭には、ノートや、口頭で情報を伝えています。


●保護者の相談については個室で行い、守秘義務を守り、相談を受けた職員は園長および主任、リーダーに報告し、適切に対応できるよう助言を受け、必要により園長、主任が同席する体制を整えています。相談内容は面談表に記録し、児童票に保管して必要に応じて継続的なフォローができるように配慮しています。年 2 回、個別面談を実施し、必要に応じて随時、実施しています。

●園生活に関する情報は、毎月、園だより、クラスだより、給食だよりを発行し、クラスだよりではクラスの状況、日常生活の様子等を掲載し、月の行事、注意事項も記載して伝えています。また、全年齢のクラスだよりを全保護者に配付し、年齢ごとの発達段階を知れるよう配慮しています。その日の活動内容はホワイトボードで知らせ、行事の様子はボードで情報提供を行い、掲示板には行事での子どもの写真を貼り出し、保護者がいつでも見られるようにして工夫しています。保護者会では園での子どもの様子を口頭で伝え、クラス懇談会では、写真やタイムスケジュール表を活用しながらわかりやすく伝えています。保育中、行事の写真はホームページ上で購入できるようにし、閲覧ができるようにしています。

●保護者の保育参加・参観（年 1 回）については、事前に年間行事表を配付し、予定を立てやすいように配慮しています。保護者に行事の手伝いの希望者を募り、園の様子を知ってもらう機会にし、見学も積極的に受け入れています。運動会では保護者競技をプログラムに加えています。乳児の保育参観の場合は、存在が知れないよう実施し、幼児では、保育に参加してもらい、楽しく過ごせるよう提供しています。また、保育参加は、希望に応じて常時受け入れ、

	<p>保育参観は随時、設けています。</p> <p>●保護者が自主的な活動ができるよう、年長保護者交流会に個室を提供しています。保護者の自主的組織は現状、保護者から希望や要請を受けていないので設けていませんが、要請があれば、活動への参加、場所の提供はできるようにしています。運営委員会では全保護者に声をかけ、参加できるようにしています。運営委員会を通して園と保護者を含む第三者とのコミュニケーションを図っています。</p>
--	---

評価領域 III 地域支援機能評価領域

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>III-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<p>●地域住民との交流では、中区独自事業のグランマ保育園事業に参加し、地域の子育て支援ニーズ、情報を収集しています。グランマ保育園事業に参加の地域他保育園とも検討会等をグランマ活動として実施しています。また、区内の子育て支援団体のネットワークに参画し、中区民まつり「ハローよこはま」に参加しています。町内会とは、夏祭り（隔年）に、保育園との共催での開催や、町内会のみでの夏祭りに参加し、町内会の役員会には職員が参加し、積極的に園について意見を聞くようにし、良好な関係作りに努めています。</p> <p>●地域の子育て支援ニーズは、職員間で情報を交えて話し合い、園の行事に地域の親子も参加できるように支援しています。地域の子育て支援サービスでは、産休明け保育、一時保育、延長保育、障害児保育を実施しています。中区グランマ保育園事業の活動から、絵本の貸し出し、交流保育、園内開放、育児相談事業、一時預かり等を積極的に行い、園見学も受け入れています。また、中区保育園の駅伝に年長児が出演し、園同士の交流から保育園ばんびーな、キディ石川町等と交流保育を実施しています。今後、さらにグランマ保育園事業の目的とする視野を広げ、地域の身近な園として活用される工夫を期待しています。</p>

Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした 相談機能



- 地域住民に対する園の情報提供では、園の行事ポスターを地域に掲示し、育児相談についても案内しています。中区こそだてポータル、広報よこはま中区版等に掲載して情報提供しています。相談事業については中区の広報誌や、園のホームページに子育て相談、園の紹介を掲載し、育児相談（毎週木曜日）を発信しています。今後、園独自の地域性を加味したパンフレットの作成に取り組み、また、地域の文化を取り入れた交流会を催す等、地域に根ざした園としての情報提供、取り組みを期待いたします。
- 地域の関係機関の連絡先はリストを整え、関係機関との連携では、近隣の医療機関、保育園等の連絡先を整え、地域の関係機関（中区の保健師、児童相談所、横浜市中部地域療育センター、警察、嘱託医等）と日常的に連携を図り、担当を園長とし、相談・助言を得られる関係を構築しています。横浜市中部地域療育センターからは年数回、巡回指導を受け、助言等を保育に生かしています。

評価領域 IV 開かれた運営


評価分類

評価の理由(コメント)



IV-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ




- 地域への園の理解促進のための取り組みとして、行事(夏祭り、もちつき)を通して地域の方と交流し、夏祭りでは町内会の方、JR 職員、近隣の方を招き、園の子どもの様子や、理解を促す機会にしています。運動会は近隣の小学校の体育館を借用し、練習の機会等で小学生とも交流しています。園では絵本を 200 冊以上保有し、地域の方にも貸出しを行い、町内会とは印刷物の手伝いや園の室内を開放する等、地域へ働きかけて交流を深めています。
- 子どもと地域との交流では、園は山下公園が近く、「人形の家」や美術館、図書館等を利用して地域の文化に触れ、近隣の散歩や買い物を通して地域の様々な人と交流する機会や、散歩や公園でも積極的に挨拶を交わしています。また、近隣の幼稚園・保育園と交流し、就学を視野に入れた中区の保育園年長児 300 名が参加する駅伝大会に参加しています。クリスマス会は地域の音楽団の方を招いたり、避難訓練では地域の消防職員の方に指導を受ける等、文化に触れたり地域に親しむ機会を設けています。天候、子


	<p>どもの体調が良い時は、できるだけ近隣の公園に散歩に行き、公園で近所の子どもたちと一緒に遊ぶ等、様々な人々を通して地域と交流しています。</p>
<p>IV-2 サービス内容等に関する 情報提供</p> 	<p>●園のサービス内容・保育方針等の情報提供は、中区のホームページや、園のホームページに情報を提供し、パンフレットを中区役所に置き、希望者に配布し、希望があれば料金、職員体制等、必要な情報を提供しています。中区の広報誌、横浜市の「ヨコママはびねすぽっと」、メールサイトにも情報提供をしています。子育てに関する資料（本、雑誌、広報など）も用意し、来園者が閲覧できるようにしています。夏祭りには園の手作りのおやつ無料券を地域の方に配っています。</p> <p>●利用者には見学ができる案内をし、サービス内容についてはパンフレットやホームページに掲載しています。利用希望者からの電話問い合わせ等については、園見学を積極的に受け入れ、基本的な対応日以外にも希望に沿って対応しています。本園で対応できない場合は他園を紹介する等、フォローも行っています。</p>
<p>IV-3 ボランティア・ 実習の受け入れ</p> 	<p>●ボランティアの受け入れは、高校の職業体験や一般のボランティア等を積極的に受け入れています。「ボランティア受け入れにあたってのガイドライン」を整備し、受け入れ担当は園長・主任とし、事前にオリエンテーションを行い、保育方針、留意事項等の理解を促しています。ボランティアには子どもと十分にかかわれるよう配慮し、終了後は感想を聞き、今後の参考にしています。</p> <p>●実習生の受け入れでは、職員は、実習受け入れのための研修に参加し、園内研修を行い、共通確認を図り、全保育士が実習担当として助言やアドバイスができるようにしています。実習では、「実習生受け入れにあたってのガイドライン」に沿って、事前オリエンテーションを行い、保育士養成校と連携を図り、希望・プログラムに合った実習計画を策定し、充実した実習となるよう受け入れています。園長は、実習日誌から実習生の疑問点や子どものかかわり方等のアドバイスを行い、様子を観察し、援助につなげています。最終日には保育士と意見交換を行い、感想を聞き、保育の参考にしています。</p>

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●人材構成については、常に構成の確認を行い、必要な人材の補充を逐次行っています。教育計画を策定し、人材育成を行い、正規職員は年2回、職員個々の上半期と下半期の目標を設定し、文書化により園長と振り返り、個別面談(年2回)を実施し、達成状況や反省を確認して次の課題につなげ、資質向上を図っています。園では、個別の査定シートを設け、目標への努力、成果を重点とし、目標達成の過程を評価し、個々の意欲につなげられるよう育成に努めています。 ●職員、非常勤職員の研修体制については、新入社員は内部研修を行い、入職期間によって実践に即した研修を実施しています。また、経験年数や役割に応じて、必要な職員が参加できるよう研修、時間を確保し、職員会議で研修報告を発表し、研修資料も配付し、園内研修で専門技術、知識を共有し、保育に生かしています。外部研修受講後は、報告書および資料を回覧し、保育に役立てています。 ●非常勤職員の配置や業務内容については、実務年数や正規職員との組み合わせを考慮して決定し、非常勤職員には必要な知識・情報を提供し、業務マニュアルは随時見られるよう事務所に備えています。また、会議録は、非常勤職員にも回覧し、共有を図っています。非常勤職員の指導では、打ち合わせの機会を設け、コミュニケーションを図りながら円滑に保育を進めています。
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●保育士の自己評価では、目標管理分析シートを計画的に実施し、保育に関する課題を明確にし、年間指導計画からも職員会議等で振り返りを行っています。職員会議の中で、保育士間で勉強会や、グループ討議等を積極的に行い、技術の向上に研鑽しています。外部からの指導では、保育園園長会議や、法人本部を通して指導を受けています。 ●目標管理分析シートにより職員個々に目標を定め、実践を評価し、改善に努める仕組みを設け、自己評価チェックリストを活用して振り返りと、保育のねらいを関連付けて自己評価を実施し、今後の保育につなげています。また、子ども一人一人の育ち、意欲、取り組む過程を重視して行っています。職員は、自身の目標を実践し、改善できるよう常に意識して取り組んでいます。

	<p>●保育所の自己評価では、職員の自己評価内で園の自己評価とかわる項目について職員会議で話し合い、課題を抽出し、改善に取り組んでいます。保育所の自己評価は、園の理念や保育の方針、保育課程に沿って年度末に実施し、自己評価結果は独自に公開しています。今年度は第三者評価を受審し、全職員が自己評価票に自己の振り返りと共に取り組み、職員会議等で合議を図り、園全体の現状を把握し、改善・課題を抽出しています。また、保育課程の見直しは、自己評価に基づいて検討しています。</p>
<p>V-3 職員のモチベーション維持</p> 	<p>●園では、職員の経験年数、能力や習熟度に応じた期待水準、個々に応じて明文化しています。緊急の場合は、担任に権限をおおむね委譲し、各自責任を持って対応し、最終的に話し合い、導くようにしています。業務改善は、リーダー会から提案を受け、クラス会議で話し合い、全体会議で確認の上、実践しています。園長は、年2回以上、全職員と面談を行い、目標管理シートを基に個々の目標の達成度、課題を共有し、個々の希望、意向を吸い上げ、より良い職場環境作りに努め、職員のやる気につなげています。</p>

評価領域 VI 経営管理

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<p>●職員の守るべき法・規範・倫理等は、「コーポレートポリシー」、「人材育成ポリシー」を定め、就業規則・マニュアル類に明示し、職員は守るべき倫理を遵守しています。運営状況・財務諸表は、法人ホームページで公開し、閲覧可能としています。リスクマネジメント・コンプライアンスについては、収集した事例を通して啓発し、職員は守るべき規範について再確認しています。</p> <p>●環境整備では、横浜市の「3R 夢」政策に沿って、ゴミの分別を子どもと一緒に実行しています。省エネ対策としては、エアコンの設定温度、使用していない室内の電気の消灯、裏紙の使用、廃材の活用等の省エネルギー活動を職員に周知し、実践しています。緑化推進では、プリンターを活用して植物を植え、栽培を楽しみながら緑化をすすめています。園では、資源を大事にする保育内容を推進しています</p>

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



●理念、保育方針は、玄関に掲示し、職員更衣室にも掲示して常に意識・理解を促し、保育方針は打合わせの都度、確認し、年数回は全職員に説明し、理解を深めています。園長は、職員との面談時に保育理念や保育方針の理解度を確認し、目標管理シート、年間指導計画、月間指導計画、行事等の計画に、園目標や保育姿勢が反映されているかを確認し、意識統一に努めています。

●重要な意思決定について、園長は、運営委員会に議題に挙げ、保護者も含めて意見交換を行い、決定する仕組み作りを構築しています。運営委員会の議事録は掲示して保護者全体に周知しています。また、年1回、保護者アンケートの実施、各行事後にアンケートを行い、意見等を参考にしてより良い園作りに尽力しています。今後、さらに日常的な意見を抽出できるよう工夫を期待します。園長は、重要な事項については、職員会議、保護者懇談会、運営委員会等で丁寧に説明を行い、連携に努め、リーダーシップを発揮しています。

●主任クラスの育成は、一般職員の中から主任候補を決め、主任に対してグレードアップ研修を実施しています。主任は、各職員の問題面、肉体的配慮を行い、職員の状況を把握し、人的必要性に応じて各クラスの保育補助に努め、円滑な園運営に尽力しています。業務では、権限と責任の委譲をおおむね受け、まとめ役およびパイプ役となり職員とかわるよう努めています。

VI-3 効率的な運営



●園長は、横浜市の園長会、日本子ども育成協議会等から事業運営に影響のある情報を収集し、分析および活用しています。外部環境の変化や収集した情報は、ミーティングや会議の場で周知を図り、運営面での重要な改善課題については、職員と共有するようにしています。また、保育に関連する記事や、新制度の動向等は積極的に情報収集を行い、研修会に参加する等、得た情報は法人本部の園長会や、取締役の来訪時に共有しています。保育に関連する記事をまとめた「エデュカーレ」を購読しています。

●法人で5年の長期計画が策定され、長期計画に沿って園の年間事業計画を策定しています。次代の施設運営に備え、幹部職員は計画的に後継者の育成を視野に入れ、組織作りを努めています。運営やサービスプロセスについては、体制作りを強化し、新たな仕組みを検討し、課題を持ち、整備に努めて行きます。運営に関しては、行政と保育団体で意見交換や、情報収集を行い、運営に生かすよう努めています。外部機関からは、法人の社労士から労

	働条件等に関して専門的に徴収し、必要に応じて助言を受け、より良い園運営に尽力しています。
--	--

29年度 福祉サービス第三者評価 本人（園児）調査結果報告書

ラフ・クルー元町保育園

* 観察調査日	平成 29 年 11 月 6 日・7 日
* 保育観察	保育園を調査者 2 名で全クラスの視察、観察を行いました。調査訪問日の 1 日目に 2 歳児とお散歩に同行し、また、生活の保育観察を行い、食事に同席して食事の様子、保育士のかかわり方、園児の様子を観察しました。各年齢については、1 日の保育の観察を通してそれぞれの特徴を捉えて記しています。

(株)R-CORPORATION

■0 歳～5 歳の子どもの様子・保育の様子

<0 歳児>

●0 歳児室は 1 歳児と乳児トイレを共有する形で配置され、トイレからも、1 歳児室を通っても行けるようになっており、食事のワゴンは給食室から 3 歳～5 歳児室を通して運ばれてきますが、午睡の時間を考慮し、0 歳児室から先に配膳がされます。いい匂いに誘われ、子どもたちは嬉しそうに食事を待ち、保育士の介助により一人一人のペースに合わせて離乳食が行われ、食事の後は食事を片づけて、清潔にし、午睡の場所を確保して子どもたちはそれぞれに入眠します。保育士に背中をなでてもらいながら眠る子どもや、お腹いっぱいになってすぐに眠る子ども等、隣は 1 歳児室ですが、環境に慣れて眠りについていきます。

<1 歳児>

●1 歳児室での食事は、3 人ずつに分かれてテーブルで食事をしています。一人一人の食事のペースはまちまちで、保育士が見守る中、スプーンですくってゆっくり食事を行う子どもや、保育士に食べさせてもらっている子ども等、外部の大人が気になるようでもちらちら見ながら目がこちらに向き、食事がままならず、保育士に促されながら、お皿を見て食べ始める等、一人一人のペースを大切に進んでいるので、食事も味わって食べることができているようでした。

<2 歳児>

●調査の初日には良い天気にも恵まれ、元町公園までお散歩に同行しました。玄関に子どもたちが集まり、一人一人自分で座って靴を履き、なかなか靴が履けない子どもや、自分で履けるまでがんばる子ども等、様々ですが、先に履き始めた子どもと後から履き始めた子どもは月齢の差異が見え隠れしていました。それぞれが靴の履くのを保育士が援助しながら出発です。園舎の階段は2歳児の子どもには少し段が高く、保育士は慎重に見守り、手をつないで階段を下りました。点呼後は、二人ずつ手をつないで並び、歩き始めましたが、近辺は、駅に近いこともあり人の往来、歩道も狭く、保育士がしっかり子どもたちを守りながら散歩を進め、車が来ると安全に最大限の注意を払っています。子どもたちは毎日の登園でこの道を歩いているので慣れた様子で2歳児ながら上手に歩いています、だからこその心配もあるようです。横断歩道では、保育士の指導の下、子どもたちが後に続き、元町ショッピングストリートに入った頃は、商店が開く時間でもあり、店先に商品が並び、掃除している人に「おはようございます」と保育士の率先した挨拶に子どもたちも「おはようございます！」と元気に挨拶し、お店の方々から「おはよう！」「かわいいね！」と声をかけてもらい、子どもたちも嬉しそうです。途中からは元町公園で合流するよう2コースに分かれ、元町ショッピングストリートを歩くコースと、一方は山側の側道を歩いて元町公園を目指しました。坂道を子どもたちは手すりにつかまり、辺りを見回しながら、一步一步小さな足で下りていきます。元町公園にはジェラール水屋敷貯水槽があり、その貯水槽に鯉が泳いでおり、元町公園へのお散歩の目的の1つにもなっています。合流後は、プールの近くに子どもたちが集まり、坂の下で2つの班に分かれ、月齢差で遊びや散歩コースを分け、体力を考慮して公園で遊びます。月齢の高い子どもの班は、鯉を見ながら遊び、坂の途中でもあり、貯水槽の周りの上下では鯉の見え方が違い、子どもたちは上に行ったり、下に降りたりして鯉を見て、「あっ！赤いのがいた！」「あっちに黒いの！」「白いのもいる」と指をさしながら顔を見せる鯉に楽しくはしゃぎ、30分近く遊び、園に戻りました。園に戻ってからは手洗いをして食事をし、坂道や人ごみの中を歩いている散歩にお腹も空いたようで、おいしそうに完食し、その後、午睡もぐっすり眠りにつきました。少し親しめたので、子どもたちはバイバイと手を振ってくれました。

<3 歳～5 歳>

●3歳～5歳児室は大きい1室を3分割して各年齢でスペースを設けて保育を行っています。窓に近い方から低い棚で仕切り、通路を設けています。3歳児のスペースは給食室から1番遠くにあり、全体が見渡せる利点もあり、のびのびと遊んでいます。食事では、給食室からワゴンが運ばれてくると、5歳児に配膳をしてもらい、食事を待っています。元気いっぱい

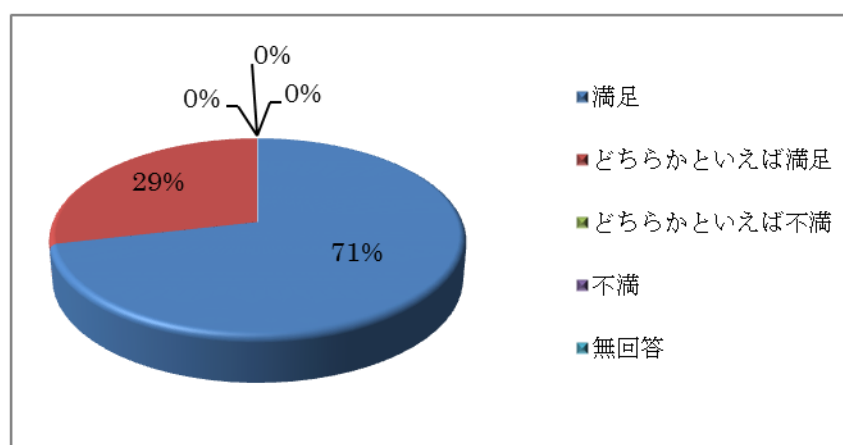
いの 3 歳児は、食事も楽しくいっぱい食べ、食事の後は保育士が掃除をして午睡の準備のお手伝いをしたりしながら、みんなで眠りにつきます。4 歳児は、5 歳児のお当番活動を見ながら、食事を待ち、常日頃から交流があるので、5 歳児と同じ気持ちで同じ姿勢がうかがえます。5 歳児の給食の当番活動で、給食室のワゴンから関与して配膳、当番のご挨拶を行い、食事内容を 3 歳～5 歳児のお友達に伝え、はりきって行う表情が見えました。また、調理員とも会話を交わし、交流が行われ、おいしく食事を行う気持ちにつながっていました。

【ラフ・クルー元町保育園 利用者アンケートの特徴】

実施年度 / 評価項目手法	29年度 / 横浜市版
アンケート調査対象	利用者家族 配布世帯数（世帯数 57）
有効回答数	28 世帯
世帯総数に対する回答者割合（%）	40%

0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
6 世帯	6 世帯	4 世帯	5 世帯	2 世帯	5 世帯

*回答があった利用者満足度の内訳（%）



●利用者アンケートの特徴として、総体的に『満足』が高く、『満足』と『どちらかといえば満足』を合わせて（以下、「ほぼ満足」という）見ると、100%の満足を得られている項目が多いのも特徴です。『満足』での高い項目では、「給食の献立について」が 89%を得、「お子さんが給食を楽しんでいるか」についての満足は 79%となっています。また、「基本的生活習慣の自立に向けての取り組み」について、「園の玩具や教材について」、「遊びを通じたお子さんの健康づくりの取り組み」等が 71%の満足を示しています。「ほぼ満足」とした高い項目では、『満足』でも高い%を示していた「お子さんが給食を楽しんでいるか」についてが、満足 79%、どちらかといえば満足 21%にて、ほぼ満足は 100%となっています。「園の玩具や教材について」も、満足 71%、どちらかといえば満足 29%であり、ほぼ満足は 100%を得、「あなたのお子さんが大切にされているか」についても満足 68%、どちらかといえば満足 32%であり、ほぼ満足は 100%となっています。さらに、「保護者からの相談事への対応」には、満足 68%、どちらかといえば満足 32%で、ほぼ満足は 100%であり、「感染症の発生状況や注意事項等の情報提供について」、「クラスの活動や遊び」についてもそれぞれ満足 64%、どちらかといえば満足 36%にてほぼ満足は 100%となっています。

また、「お子さんの体調への気配り」、「園だよりや掲示等による園の様子や行事に関する情報提供」についても、それぞれ満足 61%、どちらかといえば満足 39%であり、ほぼ満足は 100%を得ています。他の項目も「ほぼ満足」に関しては、80%以上を示しています。

●アンケートの自由記述からは、「園長先生をはじめ、どの先生（保育士）も笑顔の声かけ、やさしく良く子どもを見てもらい、安心して預けられる」、「担任もよく話を聞いてくれて相談に乗ってくれる」、「保育士の年齢、経験値が幅広く偏りがなくバランスが良い」、「子どもが園を楽しみ、給食がおいしく、満足している」、「親子共々園の生活にとっても満足している」、「玩具の管理の指導により、片づけ、譲り合いがよくできている」、「子どもだけでなく親にも配慮があり、一緒に子育てを手伝ってもらい心強い」、「食育が楽しみ」等という意見が挙がっており、園の雰囲気、行事、保育士の対応、子どもの接し方に非常に満足し、良い保育園であり、保育士の感じが良い等、保護者から好評価を得、感謝と喜びの声が多く挙がっています。

●『不満』および、比較的『満足』が低い項目は、ほとんどありませんが、「施設設備について」が、満足 29%、どちらかといえば満足 57%、どちらかといえば不満 7%、不満 7%であり、「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているか」（どちらかといえば不満 14%）についてが、ほぼ満足はそれぞれ 86%ありますが、中では特におおむね不満とした項目になっています。また、「送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換について」においてもほぼ満足は 89%を示していますが、どちらかといえば不満 7%、不満 4%という結果になっています。

保育園の基本理念や基本方針については、よく知っているが 21%、まあ知っている 57%、どちらともいえない 18%、まったく知らない 4%という結果になっています。しかし、それらの賛同については、賛同できる 61%、まあ賛同できる 18%、無回答 21%にて、79%がほぼ賛同を示しています。利用者からはサービスの満足を高く得ている保育園ですので、保育の根幹となる保育目標、保育方針をより周知・理解を促す工夫に期待されます。

●アンケートの主な意見では、お迎えの際に 1 日の子どもの様子等を話してほしい、質問に対する回答を明確にしてほしい、給食の試食体験をしてみたい、不審者対応・安全確認について詳しく知りたい、夕方の時間帯に戸外活動を取り入れてほしい等、意見が挙がっています。それぞれに関しては園から説明、周知されていると思いますが、保護者からの意見、要望等について受け止め、利用者の理解や協力につなげられるよう、日々の振り返りと見直しを図る機会を設け、園の良い点を生かし、継続してさらなる良い園づくりを期待しています。

●総合的に、『満足』は 64%の支持を頂き、『どちらかといえば満足』は 36%にて、サービスの提供について、100%「ほぼ満足」している、と捉えることができます。

利用者調査項目（アンケート）

ラフ・クルー元町保育園

【保育園の基本理念や基本方針について】

※上段%、下段人数で示していま

す
問 1

利用者調査項目		よく知って いる	まあ知っ ている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答
1	あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じで すか。	21%	57%	18%	0%	4%	0%
		6人	16人	5人	0人	1人	0人
		賛同でき る	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同でき ない	無回答
2	あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できる ものだと思いますか。	61%	18%	0%	0%	0%	21%
		17人	5人	0人	0人	0人	6人

【保育園のサービス内容について】

問 2 入園する時の状況について

		満足	どちらか と い え ば 満 足	どちらか と い え ば 不 満	不満	その他	無回答
3	見学の受け入れについては	57%	29%	4%	0%	11%	0%
		16人	8人	1人	0人	3人	0人
《その他意見》		・見学はしていない。(2) ・入園してからだいぶ経つので、もう記憶がない。					
4	入園前の見学や説明など、園からの情報提供につ いては	50%	43%	4%	0%	4%	0%
		14人	12人	1人	0人	1人	0人
《その他意見》		・入園してからだいぶ経つので、もう記憶がない。					
5	園の目標や方針についての説明には	43%	50%	0%	0%	7%	0%
		12人	14人	0人	0人	2人	0人
《その他意見》		・まったく覚えていません。 ・入園してからだいぶ経つので、もう記憶がない。					

6	入園時の面接などで、お子さんの様子や育成歴などを聞く対応については	61%	36%	0%	0%	4%	0%
		17人	10人	0人	0人	1人	0人
《その他意見》		・入園してからだいぶ経つので、もう記憶がない。					
7	保育園での1日の過ごし方についての説明には	57%	39%	0%	0%	4%	0%
		16人	11人	0人	0人	1人	0人
《その他意見》		・入園してからだいぶ経つので、もう記憶がない。					
8	費用やきまりに関する説明については（入園後に食い違いがなかったかを含めて）	61%	29%	4%	4%	4%	0%
		17人	8人	1人	1人	1人	0人
《その他意見》		・入園してからだいぶ経つので、もう記憶がない。					

問3 保育園に関する年間の計画について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
9	年間の保育や行事についての説明は	57%	39%	4%	0%	0%	0%
		16人	11人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							
10	年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	36%	50%	4%	0%	7%	4%
		10人	14人	1人	0人	2人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・0歳なので、特にやってほしいことはないです。 ・わからない ・特に要望等を出していない。 					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
11	クラスの活動や遊びについては (お子様が満足しているかどうか)	64%	36%	0%	0%	0%	0%
		18人	10人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							

12	子どもが戸外遊びを十分しているかについては	64%	29%	4%	0%	0%	4%
		18人	8人	1人	0人	0人	1人
《その他意見》							
13	園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてある、年齢にふさわしいかなど)	71%	29%	0%	0%	0%	0%
		20人	8人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							
14	自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	68%	29%	0%	0%	4%	0%
		19人	8人	0人	0人	1人	0人
《その他意見》		・もっと機会が増えても良いと思います。					
15	遊びを通じた友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	68%	25%	4%	0%	4%	0%
		19人	7人	1人	0人	1人	0人
《その他意見》		・不明					
16	遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	71%	21%	0%	0%	7%	0%
		20人	6人	0人	0人	2人	0人
《その他意見》		・不明。(2) ・体操をととても楽しみにしています。					

「生活」について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
17	給食の献立内容については	89%	7%	4%	0%	0%	0%
		25人	2人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							
18	お子さんが給食を楽しんでいるかについては	79%	21%	0%	0%	0%	0%
		22人	6人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							

19	基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	71%	18%	7%	0%	4%	0%
		20人	5人	2人	0人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・0歳なので、まだ自立への取り組みはないかなと思います。 ・先生からの、どの辺までやらせてます、やりました、の説明があまりない。 					
20	昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	68%	18%	14%	0%	0%	0%
		19人	5人	4人	0人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・時々、入眠しやすさや、スペースで文句を言っています。 					
21	おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	50%	29%	4%	4%	11%	4%
		14人	8人	1人	1人	3人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・まだ実施していない。（2） ・おむつはずしについての説明がないので、どうしたらいいかわからない。 					
22	お子さんの体調への気配りについては	61%	39%	0%	0%	0%	0%
		17人	11人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							
23	保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	61%	25%	7%	0%	7%	0%
		17人	7人	2人	0人	2人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・一度、見ていない時に噛まれたそうで、噛まれた時の状況がわからない時がありました。基本的にはどんな時も説明はしていただいています。 ・どちらかといえば満足の時もあるし、どちらかといえば不満の時もある。 ・けっこう噛みつかれて、歯形等つけて帰ってくるので、仕方がないかもしれないのですが噛む側の保護者にきちんと、させないようにお家でも気をつけてほしい。 ・幼児クラスになってからは、軽い時は説明がない時もあります。 					

問 5 保育園の快適さや安全対策については

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
24	施設設備については	29%	57%	7%	7%	0%	0%
		8人	16人	2人	2人	0人	0人
	《その他意見》	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し園庭とかあればいいと思う。 ・手洗い等を徹底している割には、病気にかかりやすい気がする。 					
25	お子さんが落ちついて過ごせる雰囲気になっているかについては	50%	43%	4%	4%	0%	0%
		14人	12人	1人	1人	0人	0人
	《その他意見》	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着けるほどのスペースのゆとりはない。 					
26	外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	39%	54%	4%	4%	0%	0%
		11人	15人	1人	1人	0人	0人
	《その他意見》	<ul style="list-style-type: none"> ・共連れで入れてしまう。 ・玄関ロックは誰でも解除できる。 					
27	感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	64%	36%	0%	0%	0%	0%
		18人	10人	0人	0人	0人	0人
	《その他意見》						

問 6 園と保護者との連携・交流について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
28	保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	57%	39%	4%	0%	0%	0%
		16人	11人	1人	0人	0人	0人
	《その他意見》						
29	園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	61%	39%	0%	0%	0%	0%
		17人	11人	0人	0人	0人	0人
	《その他意見》						

30	園の行事の開催日や時間帯への配慮については	54%	36%	0%	4%	4%	4%
		15人	10人	0人	1人	1人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・土曜がほとんど仕事なのですが、意外と保育園行事があるので…。 ・月末に行われることが多い感じがします。仕事の調整が少し難しいです。 					
31	送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	46%	43%	7%	4%	0%	0%
		13人	12人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・先生によりけり。 ・昨年より、保育者さんが帰り際に子どもについて、あまり話してくれなくなった。 ・先生にゆとりがある時は話してくれます。 					
32	お子さんの重要な情報の連絡体制については	57%	39%	0%	0%	4%	0%
		16人	11人	0人	0人	1人	0人
《その他意見》		・わからない。					
33	保護者からの相談事への対応には	68%	32%	0%	0%	0%	0%
		19人	9人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							
34	開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	71%	25%	4%	0%	0%	0%
		20人	7人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							

問7 職員の対応について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
35	あなたのお子さんは大切にされているかについては	68%	32%	0%	0%	0%	0%
		19人	9人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							

36	あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	64%	32%	4%	0%	0%	0%
		18人	9人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							
37	アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	32%	36%	0%	0%	25%	7%
		人	10人	0人	0人	7人	2人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・今のところ、アレルギー等ないのでわかりませえん。 ・わからない。(3) ・そういう場面をみたことがない。(2) ・アレルギーや障害は特にない。 					
38	話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	57%	39%	4%	0%	0%	0%
		16人	11人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》		・去年より、全体的に少し雰囲気が良くないです。					
39	意見や要望への対応については	54%	43%	4%	0%	0%	0%
		15人	12人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							

問8 保育園の総合評価

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
40	総合満足度は	71%	29%	0%	0%	0%
		71人	8人	0人	0人	0人
《その他意見》						

保護者アンケート調査結果（設問別「満足度」総合）

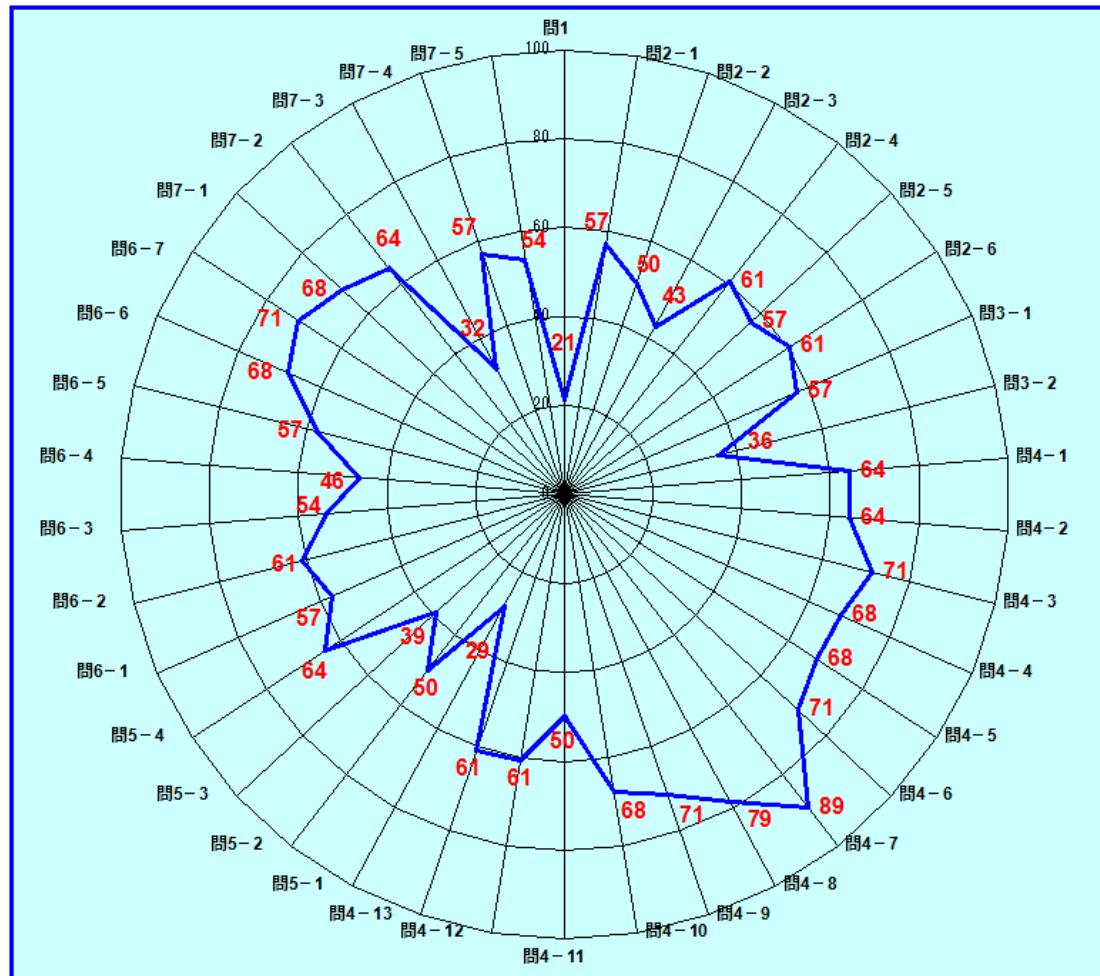
（注）レーダー数値は設問別「満足度」回答率（小数点以下は四捨五入）

調査対象園舎： 株式会社コミュニティハウス ラフ・クルー元町保育園 横浜市中区石川町 2-64

回答世帯数：57 世帯中 28 世帯 <0 歳児(6 世帯)、1 歳児(6 世帯)、2 歳児(4 世帯)、3 歳児(5 世帯)、4 歳児(2 世帯)、5 歳児(5 世帯)>

定 員： 60 名

調査期間： 2017/07/19 ~ 2017/11/07



事業者コメント

ラフ・クルー元町保育園
園長 田村 彩香

<評価に取り組んだ感想>

第三者評価は4回目の受審となりましたが、今回は園長が変わっての受審でした。園長を含め全職員が各自で自己評価したものを、全体の打ち合わせにて検討を行うことで、自分たちの保育を見つめ直し、職員全体が共通認識を持つことの大切さを再確認することができました。また、今後の方向を全職員で確認する貴重な時間となりました。

この機会を生かし、また評価内容・保護者の方の意見を真摯に受け止め、保育の質の向上につなげていきたいと思えます。

最後に、今回の受審にあたって、ご多忙にもかかわらず利用調査にご協力をいただいた、ご利用者のみなさま、ご尽力をいただいた評価機関のみなさまに心より感謝申し上げます。

<評価後取り組んだこととして>

1. プランターで子どもたちが育てたしそを自分たちの手で収穫し、栄養士と一緒にしそジュース作りを行い、作りたてを飲んだり、他クラスのお友達へもおすそ分けをした。
2. 継続的な食育として梅ジュース作りを行い、氷砂糖が溶けていく様子や梅がしぼんでいく様子を長期観察し、完成時に味を楽しんだ。